

3 路面電車を現行ルートとする場合の南口広場再整備案の概要

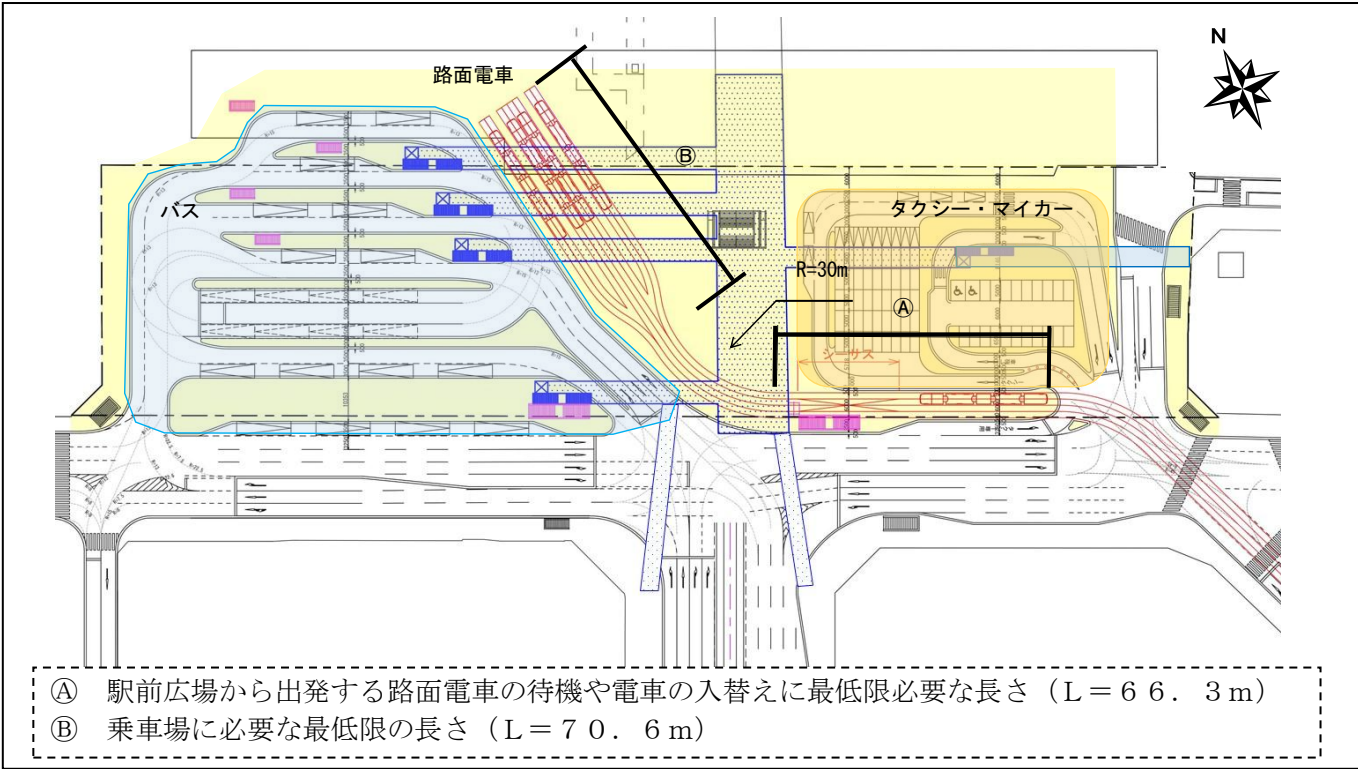
(1) 検討に当たっての基本的な考え方

現行ルートとする場合であっても、以下のとおり、可能な限り機能の向上等を図ります。

- ① 南口広場の課題解決に向けて、施設の必要規模（路面電車：乗車場4、降車場4、バス：22バース等）を可能な限り確保する案とします。
- ② 可能な限り、広場の隣接地を活用することも検討します。（広島東郵便局は、現時点では、敷地を提供する意向を持っていないため、駅ビルを改築して、その敷地の活用も考えます。）
- ③ 可能な限り、歩行者の安全確保が図れる構造とします。
- ④ A・B・Cブロックへは、ペDESTリアンデッキで結ぶことにより、回遊性を確保します。

(2) 南口広場の再整備案

広場のレイアウトについては、配置に当たって構造的な制約のある路面電車、交通処理上の制約があることに加えて大きな面積が必要となるバスの順に検討しました。



図ー3ー1 現行ルートでの駅前広場再整備案

ア 路面電車の配置について

路面電車については、そのスペースが、以下に示すように最小限となるよう配置しました。

- ① 軌道は、路面電車の待機、入替え及び乗降に必要な最低限の長さで計画します。
- ② 軌道は、バス及びタクシー・マイカーに係るスペースを可能な限り確保できるように配置します。

イ バスの配置について

バスについては、現南口広場と同様に、路面電車と平面交差させず流出入も同一の交差点としないよう、広場西側に配置します。

ウ タクシー・マイカーの配置について

タクシーについては、現広場と同様に東側に配置し、マイカーについてはバスのスペースを確保するため、東側に配置します。

4 路面電車が現行ルートの場合と駅前大橋ルートの場合の南口広場再整備案の比較

路面電車が現行ルートの場合と駅前大橋ルートの場合についての比較結果は次のとおりです。

(1) 交通施設規模の比較

項目	現況	A 現行ルートでの再整備案	B 駅前大橋ルートでの再整備案	備考
路面電車	乗車場 2か所 降車場 4か所 〔うち、待機場 接続車用 2か所 単車用 1か所〕	乗車場 4か所 降車場 4か所 〔うち、待機場 接続車用 4か所〕	乗車場 4か所 降車場 4か所 〔うち、待機場 接続車用 4か所〕	
バス	15バース	15バース	22バース	
タクシー	乗車場 3台 降車場 4台 プール 63台	乗車場 3台 降車場 4台 プール 約63台	乗車場 3台 降車場 4台 プール 約63台	
マイカー	降車スペースあり 駐車場 50台	降車スペースあり 駐車場 約23台	降車スペースあり 駐車場 約23台	短時間利用台数のみ確保